

### 想像したことを詩に書く 〜菜の花に心を寄せて〜

兵庫県高砂市立みのり会館 檜皮 道弘

#### 一 はじめに

発見したことや、心に強く感じたことを詩に書く学習は、子どもの感性を磨き、言葉の感覚を高めるうえで大切な学習である。

詩の指導に関しては、新学習指導要領中学年「書くこと」の言語活動例として、「身近なこと、想像したことなどを基に、詩をついたり、物語を書いたりすること」とある。

子どもの想像力や観察力を養い、書く力をつけるために、詩をつくる学習をより積極的

に取り入れてみたいと考える。

#### 二 学習のねらい

この学習のねらいは、対象を観察して、発見や感動、想像したことを基に、詩に表現する方法を理解させ、



詩をつくることの楽しさを実感させることにある。三年生を対象とした一時間の学習で、「菜の花」を題材として取り上げた。菜の花の詩を書かせたのは、子どもの身近にある花で、春の訪れを強く感じさせる明るい花であること、花に心を寄せながら、発見や思いを表現しやすいことなどである。この学習には、次のような価値と意義がある。

- ① 季節や自然に対して関心をもち、自然へ愛着を深めることができる。
- ② 詩のタネを見つけやすくし、詩をつくることへの抵抗感を和らげることができる。
- ③ 感受性を鋭くし、観察力や想像力、言語感覚を育てることができる。

#### 三 学習活動と指導の手立て

##### 1 「出し合う」活動

「春の宅急便」と書かれた箱（中に菜の花が入っている）を準備した。箱の中身を予測し合った後で、菜の花を取り出し、一人に一

本ずつ手渡した。花や蕾、葉、茎などをよく観察し、発見したことや気付いたことなどを自由に出し合った。

子どもの発表を「見る」「におう」「さわる」「想像する」などの観点に分けて板書した。

**見る**：葉っぱがしわしわ アイドルみたい  
花が赤ちゃんみたい 太いくき

**におう**：いいにおい ふじの花のにおい  
なつかしいにおい お花畑のにおい

**さわる**：ききがつる つる 葉がかさかさ  
葉っぱがふわふわ くきがでこぼこ

**想像する**：もう春だな 気持ちいいなあ  
花がわらっている なぐさめているよう

##### 2 「詩のつくり方を知る」活動

以前に指導した春見つけの詩や、子どもらしい発想の詩、様子や気持ちがよく表現されている詩などをいくつか紹介して、詩作への意欲を高めた。また、比喩（〜みたい、〜のようだ）、擬人化（菜の花を人に見立てて）、



#### 4 「できた詩を読み合う」活動

友だちの作品のよいところや、おもしろいところなど、作品の発表を聞いて自由に感想を語り合った。その子らしい発想や表現をほめ、成就感や満足感を持たせるようにした。

友だちの作品のよいところや、おもしろいところなど、作品の発表を聞いて自由に感想を語り合った。その子らしい発想や表現をほめ、成就感や満足感を持たせるようにした。

- ① 見つけたことや想像したことを書く。
- ② 花に話しかけるように書く。
- ③ 書きたいことから順に書く。
- ④ 短いことばで言いきるように書く。

#### 3 「詩をつくる」活動

学習活動1・2を参考にしながら、ワークシートに、菜の花を見て発見したことや想像したこと、感じたことなどを詩に書いた。書くことが見つからない子や、書き方がわからない子には、個別にアドバイスをした。

## 四 子どもの作品

なの花わらってる

ははははは、ははははは  
太陽の光いっぱいあびてわらってる  
大きな声でわらってる  
ははははは、ははははは  
楽しそうだな  
ほくもなままに入れてよ  
ねえねえ、なの花、遊ぼうよ

春からのおくり物

黄色い頭の なの花さん  
はっぱがでこぼこ なの花さん  
太いくきの なの花さん  
「きれいですか」と聞いたなら  
「きれいですよ」と答えたよ  
すぐきれいな なの花さん  
やさしい顔の なの花さん  
いつもえがおの なの花さん  
春からのおくり物  
なの花さん

かわいいなの花

なの花はアイドルみたい  
頭に黄色いかんむりつけてるね  
もしいらなくなったら  
わたしにちょうだいね  
なの花はかわいいおよめさん  
元気な赤ちゃんうむんだよ

元気な赤ちゃんうまれたら  
わたしにだかせてちょうだいね

なの花はいつもここにわらってる  
お母さんみたいなえがおだね  
なの花のにおい  
なつかしいにおいだな  
お花畑でいちばんかわいい花だね

子どもたちは、手にした菜の花を見て、感じたことや思ったことをそのままに、自由に、楽しそうに詩に書いた。花の蕾を赤ちゃんに見立てる子や、花びらを人が笑っているように想像する子など、菜の花に心を寄せて、イメージを膨らませながら詩をつくった。できた詩には、子どもの豊かな感性や、直感力の鋭さを感じさせる作品が数多く見られた。

## 五 おわりに

自然や生活、身の回りの出来事を書く学習は、子どもものの見方や考え方、感じ方を育て、書く力を高めてくれる。とりわけ詩をつくる学習は、子どもの想像力を豊かにし、ことばの力を高めてくれると考える。

ひわ みちひろ 元高砂市立米田西小学校長。授業づくりや教材研究の方法などについて今も研修を深め、他校での研究の支援と助言を行っている。